SHINSHU LIVING Concours

信州の「住まい方」コンクール
“信州の木”建築賞

～信州らしい「住宅」・「住まい方」～

作　品　集

長野県

ONE NAGANO

みんなでひとつに　がんばろう信州

「ONE　NAGANO」はみんなで復興に取り組もうという合言葉
一人ひとりがそれぞれの立場で、できることからやってみよう!

発行：長野県建設部建築住宅課
〒380-8570 長野県長野市大字南長野字幅下 692-2
TEL.026-235-7339 FAX.026-235-7479
電子メール kenchiku@pref.nagano.lg.jp

審査委員会総評

木造化、木質化のお手本となる建築物を表彰する“信州の木”建築賞は、平成28年度に創設して以来、今年で4回目となり、長野県内で建築に携わる者にとって栄誉あるものとして定着してきた。

今年度は、「住まい方コンクール」として拡充し、近年、長野県においても顕在化している、人口の減少、少子高齢化、空き家の増加、地域コミュニティの衰退等の諸問題に対し、「住まい」という切り口で具体的な提案を求めるという大変意義深い試みであった。

顕在化する諸課題がいずれも「住まうこと」と密接に関連する中、「住まい」にあっても「住宅」（ハード）のみに留まらず、豊かな自然や美しい景観、地域の歴史や文化に根ざした信州らしい「住まい方」（ソフト）の再認識と新たな提案が求められている。

応募テーマにもある、信州らしい「住宅」・「住まい方」とは何か…

今年度は、実践事例に関する「事例部門」と信州らしい「住まい方」のアイデア提案を求める「提案部門」に分け作品を募集した。事例部門については22件、提案部門については7件の応募があった。

第一次審査では、まず「事例部門」について、応募資料をもとに1作品ずつ審査委員が講評し、意見を交換した。審査委員は意匠、構造、材料など様々な職種、専門分野から構成されている。そこで、それぞれの専門分野の視点から作品を評価し、その情報を審査委員全員で共有した。これらの意見交換の後に投票を実施し、投票結果をもとに10作品が二次審査の対象となった。「提案部門」については、全作品を二次審査の対象とした。

第二次審査では、「事例部門」については現地で建物の確認と設計者等による説明の後に、第一次審査と同様に審査委員で意見交換し、投票結果をもとに最優秀作品を1点、優秀賞5点をそれぞれ決定した。「提案部門」については全作品について、それぞれ意見交換し、投票結果と協議の結果、最優秀作品該当者なし、優秀作品1点を決定した。

これらの作品はいずれも力作ぞろいであり、信州らしさを活かした、多様なライフスタイル、豊かな自然や美しい景観、地域の気候・風土や歴史・文化に根ざした「住まい方」（ソフト）と、それを形にする「住宅」（ハード）を提案するものであり、それぞれの特徴があった。審査の視点を変えれば、異なる結果となろうが、今回は県民にとって、身近でかつあこがれる住まいを実現しているものを最優秀作品として選定した。提案部門については、夢のある未来の提案、から現在でも実現可能ではあるがこれまでにないような提案、を幅広く求めたが、審査委員全員を納得させる域にはなかった。今回初の試みでもあるので、今後、主旨を明確に伝え、継続して取り組みたい。

今後も、移住したい都道府県№1を誇る長野県における魅力あふれる住まい方が県内外で共有され、その魅力が住まう人々によって守り育まれ、それらが更なる魅力となって信州への移住の契機となり、信州らしい住まい方が広がりを持つことを期待したい。

結びに、今回、作品をご提供・ご提案いただいた方々をはじめ、御協力をいただいた皆様に感謝を申し上げる。

令和２年３月

信州の「住まい方」コンクール ～令和元年度“信州の木”建築賞～

審査委員長 五十田 博（京都大学生存圏研究所 教授）

目　次

事例部門　～信州らしい「住まい方」を実践した木造住宅～

●最優秀賞（県知事賞）
晴耕雨読な暮らしの住まい …… P3-4

●優秀賞（長野県建築士会会長賞）
安曇野の平屋の家 …… P5-6

●優秀賞（長野県建築士事務所協会会長賞）
真田の家 …… P7-8

●優秀賞（日本建築家協会JIA長野県クラブ代表賞）
ふだん木の暮らし …… P9-10

●優秀賞（信州建築構造協会会長賞）
古民家再生～100年余の時を経てよみがえった２世帯住宅～ …… P11-12

●優秀賞（長野県木材協同組合連合会理事長賞）
下條村 Ｙさんの家 …… P13-14

（応募作品）
・ルーバー格子の家 …… P15
・大開口のある家 …… P15
・起伏する屋根がつくる多様な居場所 …… P16
・古民家再生～200年住宅への挑戦～ …… P16
・定年後を謳歌、「自然と穏やかに暮らす」住まい …… P17
・八ヶ岳山麓に建つ民家の再生 …… P17
・記憶をつなぐ家 …… P18
・屋根の家 …… P18
・Ｎさんの店舗がある三世代の家 …… P19
・「森」のなかの「谷」 …… P19
・信州型 根羽すぎのコンパクト住宅 …… P20
・里の家Ⅲ 百農の我が家 …… P20

提案部門　～信州らしい「住まい方」のアイデア提案～

●優秀賞（信州の多様な住まい方専門委員会会長賞）
繋がる土間、継がれる記憶　－既存建具の再利用によって開かれる住まい－ …… P21-22

（応募作品）
・信州のおおらかな自然のように、住まいと地域をおおらかに共有する
シングルマザーシェアハウス …… P23-24
・信州ならではのロケーションに馴染む家と暮らし
～本当の贅沢を平屋生活で体感する～ …… P23
・旅行中の様にワクワクする為に、故郷の信州に暮らす …… P24
・小さな緑の広場 …… P25
・めんどくさい田舎暮らしの魅力 …… P25
・信州型 コンパクト住宅 やすらぎの家 …… P26

信州の「住まい方」コンクール募集要項 …… P27-28
「信州の木 建築賞」過去の最優秀賞 …… P29-30

※ 住宅のため、プライバシー等に配慮し、了解が得られた物件のみ掲載しています。
また、掲載順序は評価の順位や優劣を示すものではありません。

事例部門　最優秀賞（県知事賞）

晴耕雨読な暮らしの住まい

所在地	安曇野市
構造	木造2階建
延べ面積	118.44 ㎡
応募者	藤松　幹雄

作品のコンセプト

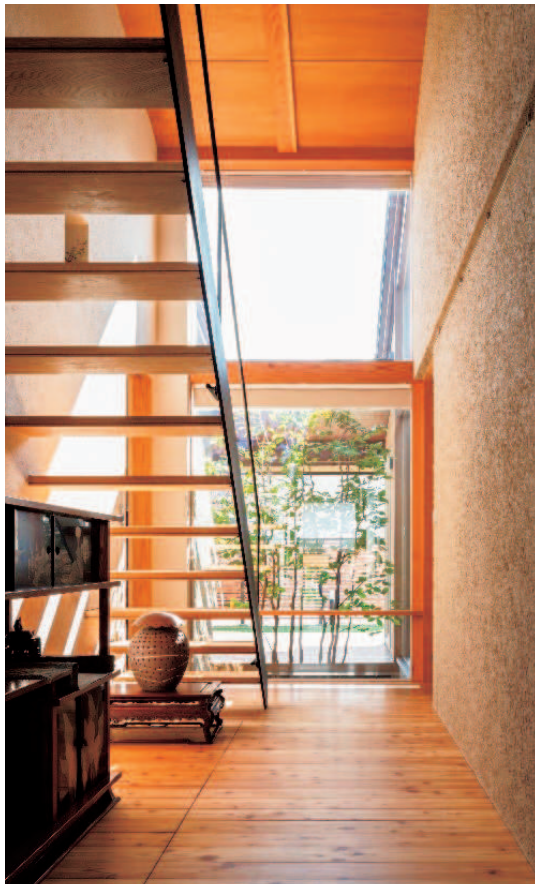
子供たちが社会人となった御夫婦が住まう。
敷地は駅より徒歩10分程で総合病院やスーパーなど程近い。自立して日常生活を送るには便利な地域。
環境条件など敷地特性を探りながら家族の集まる居間を中心に据えた。
光庭を設けシンボルツリーを囲むよう居住スペースを配置し、家に居ながらも信州の心地良い風や降り注ぐ光が感じられる住まいとした。

・高さをおさえた深い軒と梓川の川砂を入れた土壁風塗壁は、安曇野に馴染む　・半屋外のウッドデッキや庭は、ご近所との交流の場
・前庭の一角に作った畑から収穫した野菜が夕食にならび四季折々を楽しむ

・光庭やウッドデッキからの柔らかい自然光に包まれるリビング　・県産材を多用した住まい

ダイニング

バリアフリーを考慮した広めの洗面脱衣室



玄関ホールから見る光庭
・ヒメシャラが出迎える　・四季の移り変わりを楽しむ
・2 階にロフト的な部屋を設置

信州での「住まい方」　応募者の思い

日本人の平均寿命が延び、「退職後の暮らし」に十分な時間が出来た。自立しながらも元気よく過ごすのが21世紀の住宅建築のテーマではないか。
社会と関わりながらも、のんびり暮らす自由時間。子供や孫が時おり訪れる、拠り所となる賑わいのある住空間。休耕田を借りるなど、自然と関わり地域とも繋がる。
長野県は学ぶ場も多く「晴耕雨読な暮らし」の環境がそこにある。

審査員講評

「信州の住まい」とは。
ステレオタイプは、広大な自然に囲まれ、都会の喧騒から離れた、自適な住まいであろう。
最優秀作品は、駅から徒歩 10 分、総合病院、スーパーもほど近い新興住宅地に建つ。
居間を中心に光庭が設けられ、外部と内部をつなぐウッドデッキ、その向こうには家庭菜園があり、それらを望むキッチン。
言葉にするとたわいもないが、きめ細やかさが随所にみられる。
信州の心地よさ、日常生活、便利さ、大きく構えないで、いいとこどりで実現している、身近に感じられるプロトタイプとなる信州らしい住まいを選んだ、というのが審査委員一同の感想である。
（五十田　博）

事例部門　優秀賞（長野県建築士会会長賞）

安曇野の平屋の家

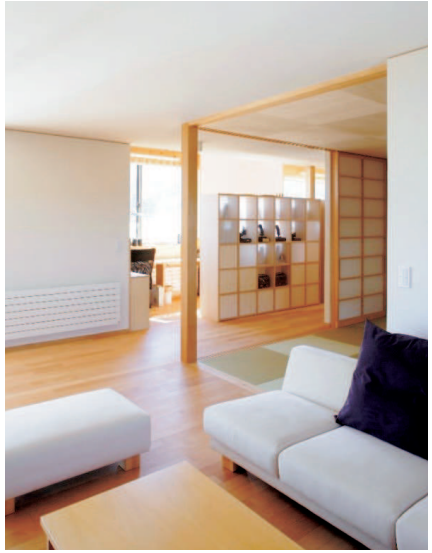
所在地	安曇野市
構造	木造平屋建
延べ面積	238.44 ㎡
応募者	尾日向 辰文

作品のコンセプト

安曇野のこの地を選び移住した50代夫婦の平屋の住まいです。安曇野のシンボルの常念岳に向かう軸線に沿って、奥に向かうに従いプラバイシーのレベルがあがる順に生活のスペースを配置し、ワンルームのように一体に構成しました。また、二方向の接道を生かし、通り抜けできるクルマの動線を設定し、途中に駐車スペースを配置しました。そこに一枚の大きな片流れの屋根を架け、おおらかで伸びやかな外観をつくりました。

・北アルプスを控えた里山の裾野の安曇野の田園風景の中に違和感なく馴染む、据わりのいい佇まいを創出
・車椅子での生活も考え、道路から室内まで段差を解消（引きのあるスロープで吸収）

リビングから見たダイニング　・薪ストーブで全館暖房　・県産材を多用した住まい



リビングから見たワークスペース

松本市街地まで望めるサンルーム
・サンルームは、内と外を穏やかに繋ぐ、空間の緩衝帯

信州での「住まい方」　応募者の思い

リタイア後の人生を，薪割りをしたり、趣味の手仕事を楽しんだり、安曇野の自然を身近に感じながらの暮らし。周囲に開けた地形を活かし、塀やフェンスなどの囲いを作らず、敷地と周辺の環境をおおらかに繋げ、穏やかに地域社会と繋がる住まい。肌で感じる地域材の豊かな素材感、心地良いスケール感など…。

審査員講評

この作品は安曇野の田園風景の中に何の違和感もなく、しっかり里山の大地に根付いている新しい住宅の佇まいである。
しかも設計者はこの住宅の近隣で幼少期から現在も生活し最もこの地の環境を知り尽くしている。
原風景である常念岳を控えた外観のプロポーションの素晴らしさと内部に入ると信州各地の木材を使い、夫々の《匠の技》の手仕事が溢れ、豊かな居心地の良い快適な空間に都会から安曇野に移住されたご夫妻はご満足して信州での生活を満喫できる住まいである。　（荻原 白）

事例部門　優秀賞（長野県建築士事務所協会会長賞）

真田の家

所在地	上田市
構造	木造2階建
延べ面積	180.95 ㎡
応募者	news設計室　丸山 和男

作品のコンセプト

40年の長い海外生活を終えて、実家のある信州にUターン。自然豊かな里山の環境の中で、庭を楽しみ、生活を楽しむ為の終の棲家。計画は庭のあり方と周辺環境との繋がり方を検討することから始まった。敷地は実家の隣で、実家との繋がりも大切にした。住まいと庭、庭と周辺環境が繋がる事で人と人が繋がり、住まい手も住まいも地域に溶け込むように考えた。

隣接する実家の庭から続く小道と雑木林をイメージした庭

庭を切り取る上部窓と通風のための下部窓

デッキを通じて緩やかに繋がる庭と住まい
・四季を通じて変化する庭は、道いく人とのコミュニケーションを豊かにし、縁側のようなリビングデッキは語らいの場として活用

明確にプライベート空間と分けたゲストルーム（2F）

居間の延長でのようなリビングデッキ

信州での「住まい方」　応募者の思い

長い時間をかけて育まれた日本の木造建築の良さを、現代の技術と融合しながら引き継いでいきたい。身近にある豊かな森林資源を使い、職人の技術を継承していく事が当たり前になるよう家づくりを続け、住まいに対する人々の意識を変えていきたい。

審査員講評

建設地は自然豊かな里山にあり、庭を中心に配置されたプライベート空間は、食堂・居間・寝室が並んでおり四季折々変化する広葉樹をどこからでもを楽しむことが出来る。さらに居間と寝室との間を板壁で仕切ることにより、家族同士のプライベート空間も確立されていることや、庭を見る目線はFIXとし、上下に開口（通風）窓を設けるなど細かい工夫は、平面計画とともによく考えられている。又、木の使い方も柾目で統一され、木に対するこだわりが感じさせられる。
給湯・暖房システムは、パッシブソーラーの弱点をボイラー併用で補うなどの省エネルギー化や、CO_2削減に寄与しており、この考えは大きく評価できる。
設計者はもとより、施主の住宅に対する強い情熱が感じられる作品である。　（小河 節郎）

事例部門　優秀賞（日本建築家協会JIA長野県クラブ代表賞）

ふだん木の暮らし

所在地　伊那市
構造　木造2階建
延べ面積　161.39 ㎡
応募者　建築設計室ヴェクトル　一級建築士事務所
倉田 政人

作品のコンセプト

日々の暮らしの中で木とのかかわりが、地産材・里山との繋がりに直結していると感じています。気張らず・気ままな普段使いの木の暮らしを基に、木を通じて地域とのコミュニティを目指しました。

高さを抑え、緩やかな屋根勾配と大庇とした民家調の外観

開け放ちの続きの間となる2階和室

2階の大開口は、近隣の山並みを季節の風景として取り込む

気持ちが外へと向かう主寝室、ラウンジを介して庭へ続く

・薪ボイラで創熱し、給湯・暖房　全ての温熱に利用
・暮らしの中に薪づくり等、必然と木にかかわりが生まれるライフスタイル
・建物の用材は調達から建築まで全て市内で行った、低マイレージ材を利用

信州での「住まい方」　応募者の思い

「住まうことは、この場所に暮らすこと」と捉え、特に信州の住まいには、場所の特性や地域ならではの豊かな自然の恵みを取り入れた建物と、活用した住まい方が必要と考えます。
中でも森の恵みを取り入れ、日々木とのかかわりのある住まい方は自然と地産材や里山への関心が深まります。
また、用材やエネルギーだけでなく、人と人・地域を結ぶコミュニティを造り、地域内の循環、産業への懸け橋にもなります。
この一端を担う建築士として、かかわりをもつ全ての方々と信州での住まい方を通じ、次世代へ継ぐ地域や環境への意識共有に寄与したい。

審査員講評

地域産材利用を第一と考え、樹種にこだわることなく入手可能な材料を適所に利用するという考え方で出来上がった住宅である。材料の調達だけでなく製材、乾燥、加工、建築も全て地元で行うと言う徹底振りに驚かされた。
内部は適度な段差を利用して空間に変化をつけつつ、品よくまとまっている。床材の巾が3種類あることからも、材料を大切に使う思想が伝わる。
しかし、特質すべきは住まい方にある。山に残る未利用材、処分材等を木質ボイラーで焚き温水を作り、給湯と暖房に利用している。林業者にとって使い道の無い材料を低額で購入し、バイオマスエネルギーとして利用する考え方は双方にとって有用であり、なによりも環境に優しい。
長野県内の住まい方として一つの方向性を示した住宅である。

（荒井 洋）

事例部門　優秀賞（信州建築構造協会会長賞）

古民家再生 ～100年余の時を経てよみがえった2世帯住宅～

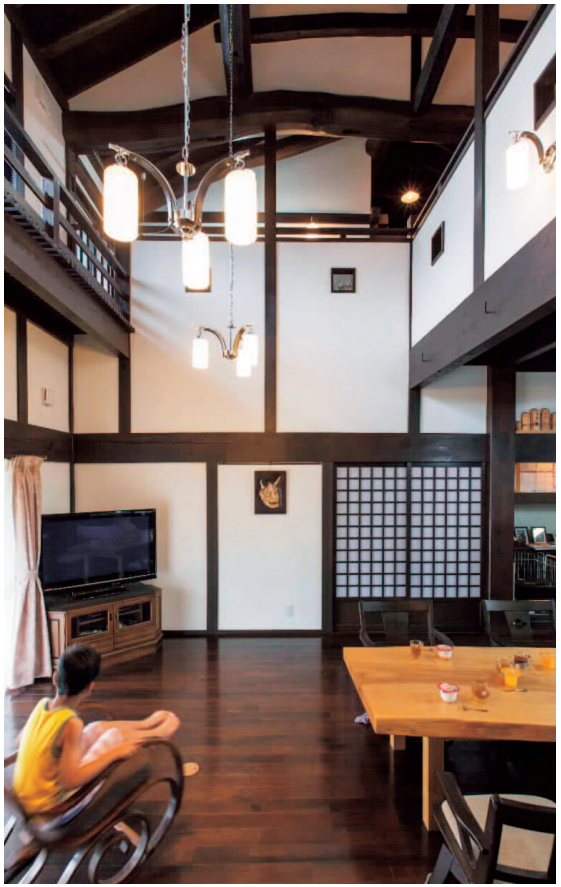
所在地	上田市
構造	木造2階建
延べ面積	323.07 ㎡
応募者	㈱林工務店　代表　林 正道

作品のコンセプト

先祖代々大切にしてきた住宅を、耐震性・省エネ性を向上し、2世帯が楽しく快適な空間になる様よみがえらせたいというお施主様の思いから、古き良い材料は残す民家再生工事の施工方法を採用。

当初の建物の雰囲気をなるべく再現した古民家らしい佇まい

3代にわたる家族が全員でくつろげる36帖あるリビング



吹き抜けは、明るさの確保のほか、
2階の世帯とのコミュニケーションを容易にしている

天窓を設置し、北側の明るさを確保

地元赤松の梁を残し、当時の雰囲気を復元した2階吹抜ホール

信州での「住まい方」　応募者の思い

先祖から受け継がれた信州に適した住宅を、家族の意思を統一し、家族一体となって修復し住み継いでいく住まい方は、今後のあるべき住まいづくりのひとつ。

審査員講評

建物の外観は漆喰の白壁に腰板は杉の下見板張り、木製のベランダ手摺など風格がある。建物内部は大きな吹き抜けが新しく設けられ、リビングを明るくしている。
古民家再生の魅力は、何と言っても使用材料の骨太さである。本建物は建物全体を北側へ曳家することで土台と基礎部分を新規に設け、緊結することで重要な部分を補強している。
上部構造は、耐力壁の量と配置のバランスと接合部の補強により改修されている。
このように先祖代々大切にされてきた家を改修し住み続けることは、これから先の我が国にとって大切なことである。（山辺 豊彦）

事例部門　優秀賞（長野県木材協同組合連合会理事長賞）

下條村 Yさんの家

所在地	下伊那郡下條村
構造	木造2階建
延べ面積	93.6 ㎡
応募者	新井建築工房＋設計同人 NEXT 代表 新井 優

スキップ階段とリビングダイニング　小さな家の為、地域材の見え方を工夫

傾斜地を活かしスキップした住宅とアウトドアリビング

作品のコンセプト（施主から）

長男だからいつかは下條村に戻る、ということを決めてはいたものの、いつまでもぼんやりとしていたビジョンがはっきりしたのは3年前の夏でした。
県外に暮らして数年、一歳の娘と帰省していた私たちが見たのは、朝露にきらきら光る田んぼの真ん中の道をのんびりと登校していく小学生の男の子でした。
子どもはどこでも育つとわかっていましたが、自分たちが育った信州で子育てをしたいという気持ちがはっきり定まった光景でした。
敷地は実家と同じ地区の農家の方が「〇〇くんが帰ってくるなら」とすばらしい見晴らしの農地を提供してくださいました。
そしてなにより、年を経て、暮らしていくほどにすてきになっていく小さな巣のような居場所になる家がいい、そんな私たちの思いをかたちにしてくださる建築士さんと出会うことができました。
じっくり話を聞いていただき、ご提案いただいた家は斜面を活かしたスキップフロア。
半階下にある寝室は眠りに降りて行くときに少しひんやりとした巣穴に籠るようでとても落ち着き、半階上にある子ども室は空に向かって登って行く感覚と窓辺のベンチがわくわくします。
冬には本棚に囲まれた天井が少し低い暖炉部屋にみんなが集まり、夏にはアウトリビングとしてご提案いただいたウッドデッキにプールを広げ、子どもたちがはしゃぎます。
思い切り畑仕事や庭仕事をして泥だらけになってもウッドデッキから直行できるお風呂、畑で収穫したたっぷりの野菜をどんどん料理していく心地よい台所。
部屋は心地よく繋がり、どこにいても家族みんなの存在が程よく感じられ、居場所が沢山ある家。
家族が増え、歳を経て、家族の距離やかたちが変わっていくことがこんなに愉しみなのはこの家のこの暮らしがあるからだといま心から思います。

外から飛び込める浴室

正面に窓がある独立型のキッチン

薪ストーブ、本棚、ベンチのあるリビング

信州での「住まい方」　応募者の思い

年を経て、暮らしていくほどに素敵になっていく小さな巣のような居場所になる住まい。アウトリビングや、薪ストーブの周りにベンチと本棚がある濃密な家族の団らんが出来る入り込み暖炉。窓際ベンチが楽しい子供室、畑仕事の後に外から飛び込める浴室…。Uターンした故郷の素晴らしい見晴らしの傾斜地に建ち、大らかな時の流れの中で家族の時間と地域の繋がりを紡いでいく住まい。

審査員講評

傾斜地をうまく活用した、3層のスキップフロアーの住宅は、コンパクトなのに自然の中に存在感を感じさせられる建物です。
大きなリビングテーブルからは、アウトリビングやキッチン、薪ストーブを備えた憩いスペースと見渡せ、家族みんなの共有スペースが感じられる。
外から入れる浴室やリビングは自然と一体感が感じ、日々の生活の動きも想像させられる。
木材はほとんどを県産材を活用しており、地域と自然に溶け込んで建っています。
家族みんなが、デッキに腰を掛け団欒する姿が目に浮かぶ住宅です。
（宮崎 正毅）